

スマートフォン用アプリ「救命ナビ」について

仙台市消防局警防部救急課



Google play



App Store

1. はじめに

仙台市消防局では、平成30年4月1日現在、6署3分署13出張所及び救急ステーションに合計26隊の救急隊(うち1隊は高度処置救急隊[ドクターカー])を配置し、24時間365日、108万市民の安全・安心な暮らしを守っています。

平成30年中の救急出場件数は52,538件、昨年より2,722件増、搬送人員は46,591人にのぼり、これは、1日平均143.9件、約10.0分に1件の割合で救急出場し、市民23.3人に1人が救急車により搬送されたこととなります。

本市においても、救急出場件数は増加傾向にあり、119通報から救急隊が現場に到着するまでの時間についても、延伸傾向が続いています。

このような状況下にあるため、バイスタンダーによる応急手当がより一層重要性を増してくることは言うまでもありません。平成29年の本市における全心肺停止症例を対象としたバイスタンダーCPR実施率は52.3%、目撃あり心肺停止(心原性)にあつては、58.2%(1か月生存11.4%)と高い数値になっておりますが、救命率のさらなる向上を図るためには、バイスタンダーによるCPR実施を、より強固に推進していく必要があります。

また、本市では、「年間2万人以上の受講者」を目標に掲げ、応急手当の普及啓発を行っていますが、平成30年は27,032人の方が受講し、市民の関心の高さが伺えます。

多くの市民が応急手当講習を受講している背景には、「いつでもどこでも気軽に応急



図1 トップ画面

手当について学べ、緊急時にも使える」をコンセプトに、スマートフォン用アプリケーション「救命ナビ」を開発し、平成25年2月から公開（無料）していることも、応急手当普及啓発に効果を現していると考えます。（図1）

2. アプリ「救命ナビ」の開発経緯

この「救命ナビ」の開発経緯は、「JRCガイドライン2010」の公表、消防庁の「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」の改正を受け、平成24年3月に本市の「応急手当の普及啓発活動に関する実施要綱」を見直すとともに、より多くの市民が応急手当を学びやすい環境を実現するため、消防庁の「応急手当短時間講習普及促進研究事業」に参画し、インターネットによるeラーニングシステムと、普及が著しいスマートフォン用のアプリケーションを開発し、本市の実情に即した新たな応急手当普及啓発活動を推進していくこととしました。

3. アプリ「救命ナビ」の機能概要

アプリ「救命ナビ」には、図2に示す機能が搭載されています。「応急手当を学ぶ」「救急受診ガイド」「救急電話相談」の各機能画面のイメージは図3に示されています。

（1）「救命ナビ機能」

1つ目の機能である「救命ナビ」には、実際に救急現場に遭遇した際に、傷病者の意識・呼吸の確認から119番通報、さらには胸骨圧迫・人工呼吸のやり方を、動画と音声で分かりやすく誘導してくれる「救命ナビゲート機能」が搭載されています。

（2）「応急手当を学ぶ機能」

「応急手当を学ぶ機能」では、応急手当の手順やポイントを動画やナレーションで詳しく紹介していますので、過去に救命講習を受講した方のみならず、初めて応急手当を学ぶ方にも分かり易いものとなっております。（図4）

（3）「救急受診ガイド機能」

急な病気やケガの症状から、救急車を呼ぶべきか判断に迷った際に、自ら判定することができる「救急受診ガイド機能」を平成29年4月から追加いたしました。この機能は大人から子供まで、その時の症状により該当する項目をタップしていくと、アプリが4段階の緊急度を判断し、直接119番通報できる画面や、継続的に様子をみて症状が悪化するようであれば、医療機関の受診を考慮してもらおうといった内容のガイダンス画面を表示し、受診の必要性に係る判断をサポートするものです。

（4）「救急電話相談機能」

「救急電話相談機能」では、《おとな電話救急相談#7119》と《こども夜間安心コール#8000》について案内する画面を確認することが出来るようになっています。

(5) AED 設置場所の確認機能

その他「仙台市内のみならず全国の AED 設置場所が確認できる機能（消防本部、団体等で把握・公開されているものに限る。）」を付加しており、出先などで救急現場に遭遇した際にも、速やかに AED を準備することが可能となっています。

アプリトップ画面紹介



- 救命ナビ**
「いざ」という時に119番通報と心肺蘇生法を的確にナビゲートします。
- 応急手当を学ぶ**
心肺蘇生法やAEDの取扱い方法のほか、止血法や熱中症となった場合の対処法などについて分かりやすく解説しています。
- 救急受診ガイド**
症状に応じた項目を選択することで救急車を呼ぶべきか、医療機関を受診すべきか、また、夜間であれば翌日の診察でも構わないといった緊急性を判定します。
- 救急電話相談**
専門家から受診の必要性や対処方法等の適切な助言や受診可能な医療機関の案内を電話で受けることができます。
- 社の都ハートエイド 仙台市内AEDマップ**
仙台市が実施している社の都ハートエイド（応急手当協力事業所表示制度）に協力をいただいているAED設置事業所の所在地を確認できます。
- その他の地域のAED設置場所**
全国各地域のAED設置場所が確認できます。
※掲載されているAEDの設置場所は、各消防本部、団体等が把握している情報であり、地域に設置されている全てのAEDを表示しているものではありません。

図2 各機能の概要



応急手当詳細
やけどの応急手当
やけど(熱症)は、熱いお湯や油が体にかかったり、炎ややかんだ熱いものに触れたりすると起こります。あまり熱くない湯たんぼなどが、体の同じ場所に長時間当たっていた場合(低温熱傷)や、塩酸などの化学物質が皮膚についた場合(化学熱症)にもなることがあります。
やけどの応急手当の方法
● 水で冷やす
やけどは、すぐに水で冷やすことが大切です。やけどを冷やすと、痛みが軽くなるだけでなく、やけどが悪化することを防ぐこともできます。

救急受診ガイド
救急車を呼びましょう
119番通報し、救急車を手配してください。
119番へ通報する
救急車が来るまでに用意しておくもの
救急車を呼んだら、こんな物を用意しておく便利です。

救急電話相談
救急電話相談のご案内
お住いの地域や端末環境により、ご利用いただけない場合があります。
●おとな救急電話相談 #7119
おとな救急電話相談へ
※「#」発信がつかない場合は、下記番号へおかけください。
022-706-7119
開設時間
平日(月～金) 19時～翌8時
土曜日 14時～翌8時
日曜・祝日 24時間

図3 「応急手当を学ぶ」「救急受診ガイド」「救急電話相談」の各画面



図4 胸骨圧迫の動画

4. おわりに

救命ナビは、応急手当に対する興味・関心の向上と、特にスマートフォンに慣れ親しんでいる若い世代が興味を示してくれることが主目的であります。また、実際の救急現場では、応急手当を行うことに躊躇したり不安を感じたりすることがあり、このアプリの救命ナビゲート機能がこれらの不安を軽減し、より多くの方が勇気を持って応急手当にチャレンジしてくれることを期待します。

仙台市としては、このアプリを活用することにより、応急手当の裾野を拡大するとともに、救急現場において、バイスタンダーによる迅速かつ効果的な応急手当が実施されることで、救命率の向上に繋がるよう、今後とも更なる啓発に努めていきたいと考えています。